

講義名	社会調査演習 【履修条件要確認】				
担当教員	桑原 桃音 / 脳 穂積 / 栗田 真樹				
開講期・曜日・時限	後期 水曜日 3時限		授業形態	演習	
履修開始年次	3年生	単位数	2	備考	
主題と概要					
社会調査法のうち、質問紙調査法と フィールドワークの方法を用いながら人々の生活に関する諸問題に関する調査実習を行なう。具体的な対象としては、人々の消費の場であり、生活空間でもある「フードマーケット」や「商店街」を取り上げる予定である。演習Ⅱでは、演習Ⅰを受けて、2つのコースごとに、報告書の作成を目指す。統計調査においては、データ解析のデザイン(基礎的なデータ解析法)、調査の方法、調査データ・コーディング、データ・エディティング、SPSSによるデータ解析、報告書の作成といった一連の統計調査法の手順・技法を、実践的に修得することを目指す。フィールドワークにおいては、演習Ⅰにおいて概略決定された流れに則って調査を実施し、明らかとなった調査内容を分析・解釈し、報告書にまとめ、それを調査対象となった集団ないし個人にフィードバックするまでを行う。					
到達目標					
・「社会調査演習Ⅰ/Ⅱ」をもとに報告書を作成できる。					
提出課題					
演習Ⅱの終了時に報告書の作成を義務付ける。					
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック					
授業中に講評・解説します。					
評価の基準					
出席・平常課題・グループへの参加状況等を総合して評価する。					
履修にあたっての注意・助言他					
社会調査士科目の必修科目であるので、社会調査士資格希望者はこの科目とともに、同年度開講の「社会調査演習Ⅰ」も必ず受講すること。なお「社会調査演習Ⅰ」を履修していなければ「社会調査演習Ⅱ」は履修できない。 授業時間外に演習活動の時間を設定する可能性があるため、その点を踏まえて履修すること。 事前に社会調査士科目（A領域～F領域）を3科目以上単位修得しておくこと。 事前申込制とするので、資格取得希望者は上記の条件を満たしたうえで申し込み手続を行うこと。					

教科書				
・ 特には指定しない。				
プリント資料及び参考文献				
随時配布、紹介する。				
授業計画				
1 演習のイントロダクション 2 社会調査の意義 3 具体的方法と過程の確定 4 データ・コーディング 5 調査対象の確定と交渉への進路 6 データ・エディティング 7 文献研究（1） 8 データ入力 9 文献研究（2） 10 単純集計 11 フィールドワークプラン（1） 12 クロス集計1 13 フィールドワークプラン（2） 14 クロス集計2 15 調査対象者との接触交渉 16 ピアソンの積率相関係数 17 フィールドワーク（1） 18 尺度構成法1 19 フィールドワーク（2） 20 尺度構成法2 21 フィールドワーク（3） 22 多変量解析1 23 結果の吟味 24 多変量解析2 25 報告書の作成（1） 26 報告書の作成1 27 報告書の作成（2） 28 報告書の作成2 29 調査対象者への報告				
授業形態（アクティブ・ラーニング）				
☐ ア：PBL（課題解決型学習）		☐ イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
☐ ウ：ディスカッション、ディベート		☐ エ：グループワーク		
☐ オ：プレゼンテーション		☐ カ：実習、フィールドワーク		
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）				
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間				
この授業科目は2単位ですが、2単位に必要な学修総時間は90時間と決められています。90時間の内訳は授業で30時間（2時間×15回）、予習・復習で60時間（4時間×15回）です。 予習・復習等、授業時間外で60時間の学修を達成できるように主体的・積極的に取り組んでください。 具体的には、授業前に自らの授業内容について文献やインターネットを探索する等情報収集をしておいてください（2時間）、また授業後に自らの授業内容を復習し、要点をまとめること。疑問点があれば質問できるように記録しておいてください（2時間）。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連				
・社会の仕組みや働き、日常生活と文化、人々の心理など、現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造することができる。 ・統計調査やフィールドワークなどの実証的な調査研究の方法、コミュニケーション能力を身につけ、それらを社会共創活動、ビジネス、援助に実践的に活用することができる。 以上の学部のディプロマポリシーを達成するための調査能力を、演習授業を通して修得することを目指します。				
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述				
対面授業（面検授業）を基本としますが、新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては、オンライン授業（「同時双方向型」および「オンデマンド型」）で行います。 スマートフォンで対応できることを基本としますが、カメラ付きのPC、タブレットの利用を推奨します。				
実務経験の有無及び活用				
実務経験あり（桑原・脳・栗田は三名ともに「専門社会調査士」資格を有している。また脳は社会調査に基づくマーケティング会社を経営している）。これらの経験に基づいて社会調査演習を指導します。				
備考				